

## 第2章

# 環境の現状と課題



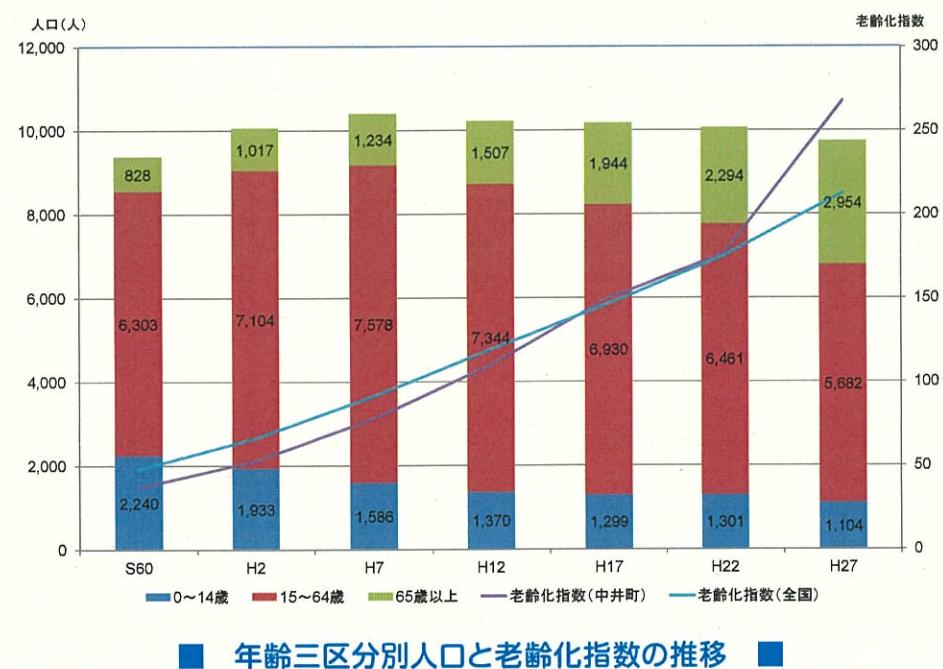
# 1. 中井町の概況

## (1) 人口

平成22(2010)年以降も少子化、高齢化の波はとどまらず、老齢化指数は平成17(2005)年の146.5から、平成22(2010)年は176.3、平成27(2015)年は267.6へと上がっています。

国との比較では、平成17(2005)年及び平成22(2010)年は、ほぼ同じくらいの値でしたが、平成27(2015)年には中井町の老齢化指数が国よりもだいぶ大きな値になっています。

$$( \text{老齢化指数} ) = ( 65\text{歳以上人口} ) \div ( 0\sim14\text{歳人口} ) \times 100$$



■ 年齢三区分別人口と老齢化指数の推移 ■

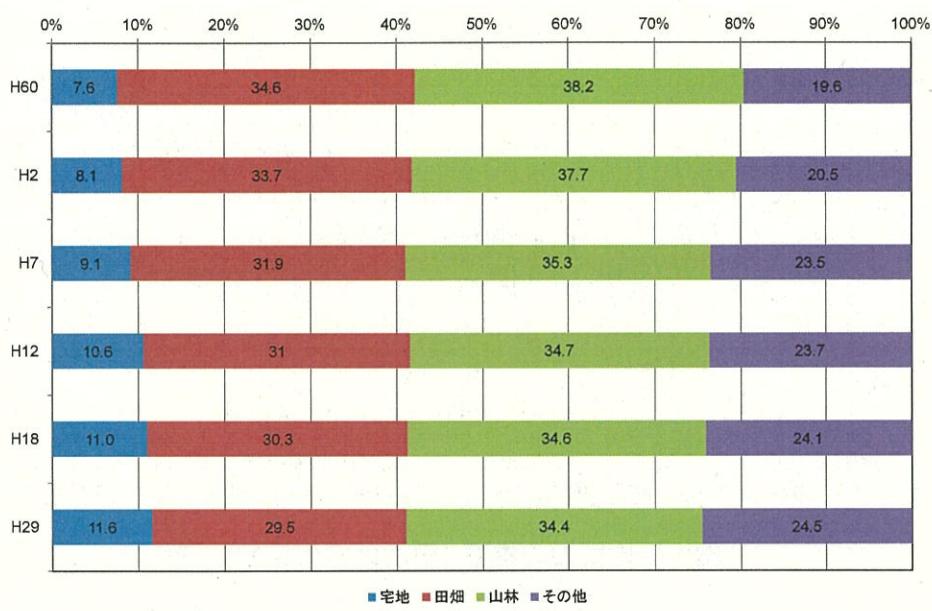
昼夜間人口比は、平成17(2005)年は127.5でしたが、平成22(2010)年は127.8、平成27(2015)年は123.8となっています。多少は小さくなりましたが、まだ昼間人口が多いことがわかります。

これは、グリーンテクなかいへの企業進出の影響によります。

## (2) 土地利用

平成18（2006）年と平成29（2017）年を比較すると、宅地面積がわずかながら増加し、その分田畠面積が減少しています。山林は平成12（2000）年以降ほぼ変化していませんが、昭和60（1985）年と平成29（2017）年を比較すると3.1%の減少となっています。

環境意識調査によると、中井町の環境を良くしていく上で重視すべき事項として、「森林や里山の保護」や「森林等への不法投棄の防止」が上位に上がっており、森林や里山の保護・保全に対する住民意識が高いことが伺えます。



■ 里山風景 ■

### (3)気象

町内では長期的に定期観測している実測値を得ることができないため、100年以上のデータを確認することができる横浜地方気象台のデータにより経年的な変化を確認します。

昭和2(1927)年頃と比較すると、近年は平均気温で2°Cほど上昇し、温暖化が進行していることがわかります。

第  
1  
章

第  
2  
章

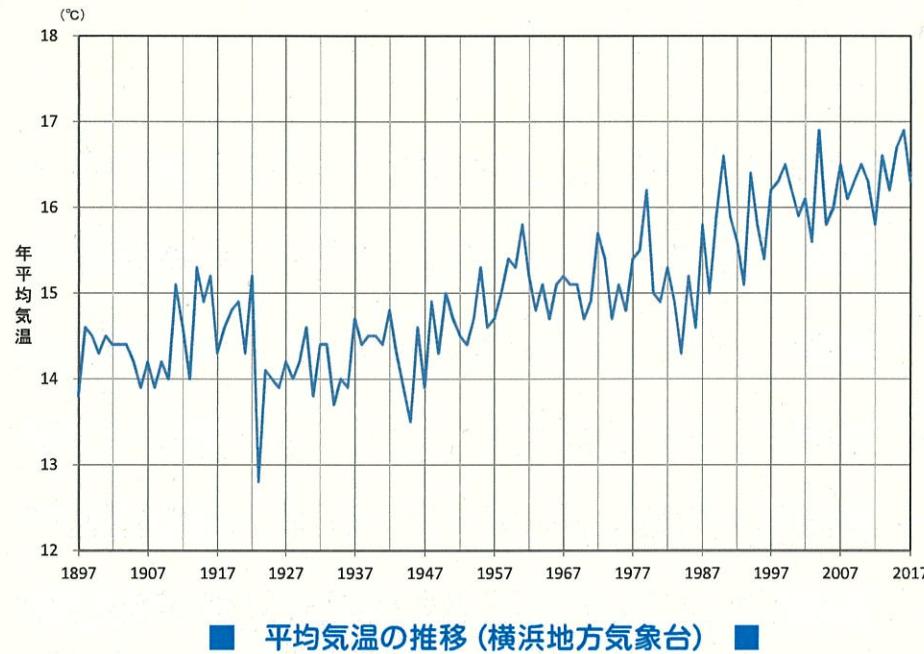
第  
3  
章

第  
4  
章

第  
5  
章

第  
6  
章

資  
料  
編



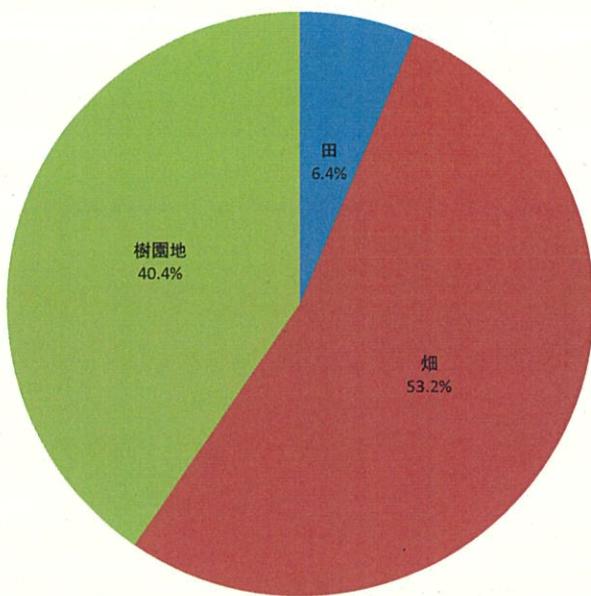
■ 平均気温の推移（横浜地方気象台） ■

環境意識調査では、地球温暖化対策への取り組みの優先度が最も高くなっています。

## (4) 農地

平成27(2015)年の経営耕地面積は235haであり、その内訳は次に示すとおりとなります。一方、地目別面積を見ると、平成27(2015)年の田畠面積は585haとなっております。

この差分(350ha)には経営耕地ではない田畠、即ち自給のための田畠や町民農園などが含まれますが、平成27(2015)年の農林業センサスによると、中井町には89haの耕作放棄地があるとされています。



■ 経営耕地面積の種類別割合(平成27年) ■

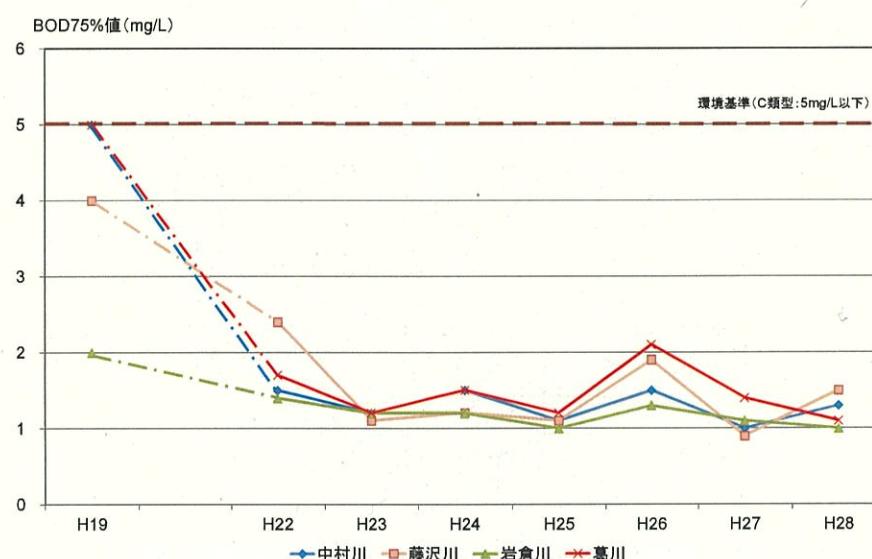


■ 農作物収穫体験 ■

## (5) 河川水質

平成19（2007）年度は環境基準値こそ守ることができていたものの、水質は悪化する傾向が見られ、環境基準ぎりぎりの河川が2河川（中村川、葛川）ありましたが、近年はいずれの河川ともBOD75%値がほぼ2.0mg/L以下であり、下水道の普及などにより、水質に大きな改善が見られます。

環境意識調査では「川や水路のきれいさ」が優先度の高い取り組みとして上がっており、また中井町の環境を良くしていく上で重視すべき事項として、「川や湿生地、用水路などの浄化」、「地下水汚染の防止」及び「下水道の整備」が上位にあり、河川等の水質に対する意識が高いことが伺えます。



■ 河川水質の経年的な推移 ■



■ 水辺の風景 ■

## (6)生態系

平成23(2011)年度から平成28(2016)年度までの6年間、生物多様性調査を実施し、町内の動植物の分布、発生時期、生息状況、数量、経年変化などの情報を収集しました。その結果、過去に報告のあった種も含めて458科2,844種の動植物が記録されています。また、記録種のうち、神奈川県レッドデータ生物調査報告2006に登録されている種は動植物で計113種になります。

### ■ 分類群ごとの記録とレッドデータの種等数一覧 ■

区分	記録種		神奈川県RDカテゴリ					
			絶滅危惧		絶滅危惧 II類	準 絶滅危惧	希少種等	計
	科	種	I A	I B				
ほ乳類	11	16	1	0	0	3	1	5
鳥類	47	132			2	9	5	11
					0	2	3	4
両生類	4	7			0	0	0	2
は虫類	5	9			0	0	0	5
魚類	3	12	0	1	0	4	2	7
昆蟲	200	1,398			5	3	12	27
クモ	24	118			0	0	0	0
甲殻類	7	8						
貝類	2	3						
植物	155	1,141	1	7	2	1	0	11
合計	458	2,844	2	15	16	28	52	113

注) 鳥類の上段は繁殖期、下段は非繁殖期

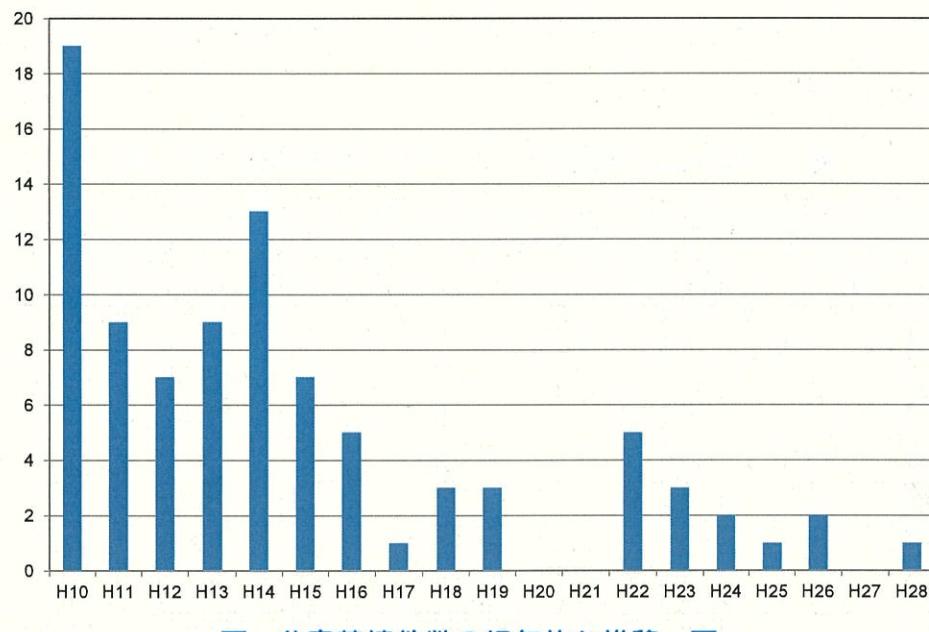
出典) 中井町生物多様性調査報告書



■ アブラハヤ(町内に生息する希少種) ■

## (7)公害対策

平成14(2002)年度頃までは10件以上の苦情が寄せられる年もありましたが、近年は0~2件と、苦情件数は非常に少なくなっています。



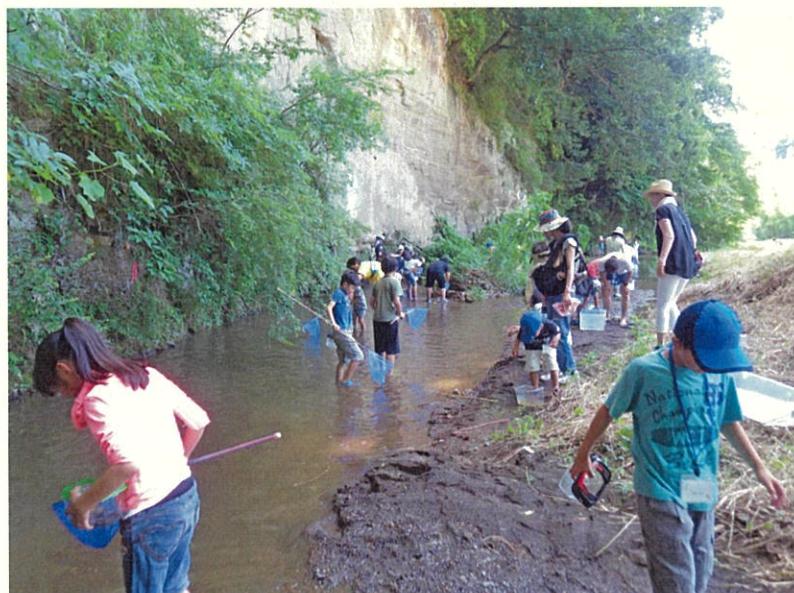
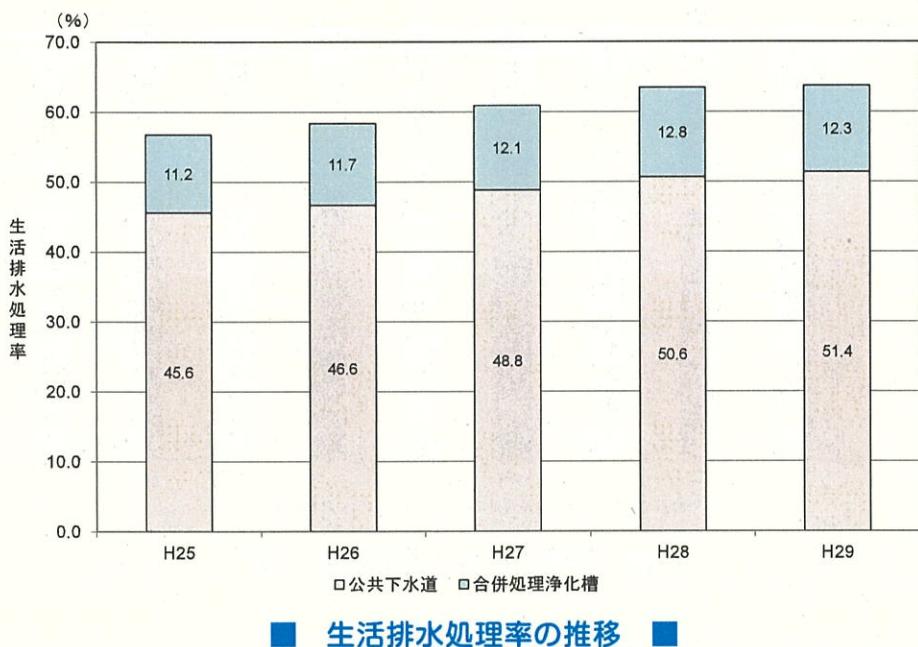
■ 公害苦情件数の内訳 ■

区分	総数	大気汚染	水質汚濁	土壤汚染	騒音	悪臭	その他
H10	19	12	3	1	2	1	0
H11	9	0	1	0	2	4	2
H12	7	3	1	0	2	0	1
H13	9	0	2	0	4	2	1
H14	13	2	2	2	5	1	1
H15	7	2	2	0	1	0	2
H16	5	1	0	0	1	2	1
H17	1	0	1	0	0	0	0
H18	3	0	2	0	0	1	0
H19	3	0	1	0	1	1	0
H20	0	0	0	0	0	0	0
H21	0	0	0	0	0	0	0
H22	5	3	0	0	1	1	0
H23	3	2	1	0	0	0	0
H24	2	1	0	0	0	0	1
H25	1	0	1	0	0	0	0
H26	2	0	1	0	1	0	0
H27	0	0	0	0	0	0	0
H28	1	0	0	0	0	1	0

## (8)生活排水対策

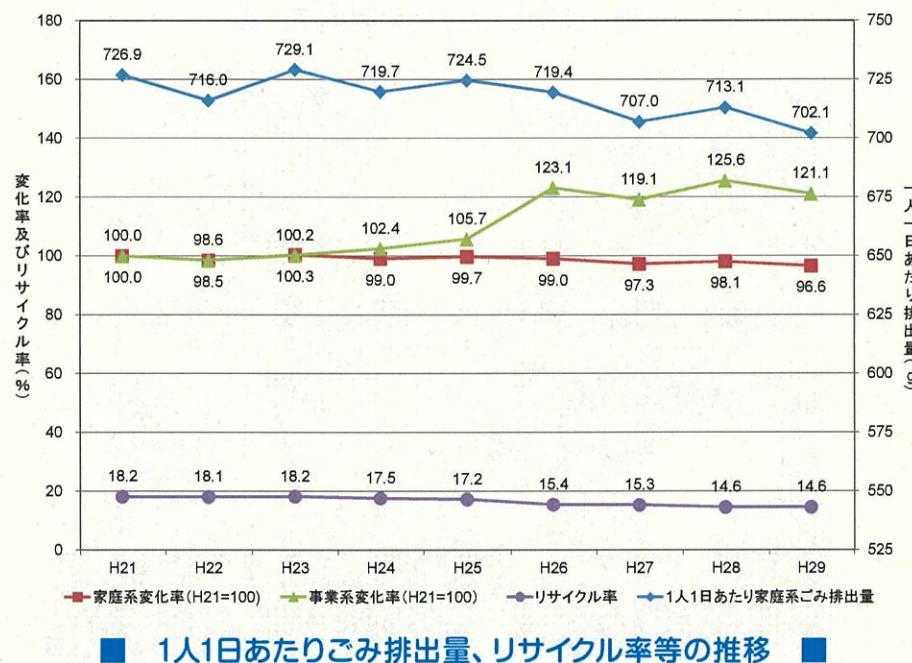
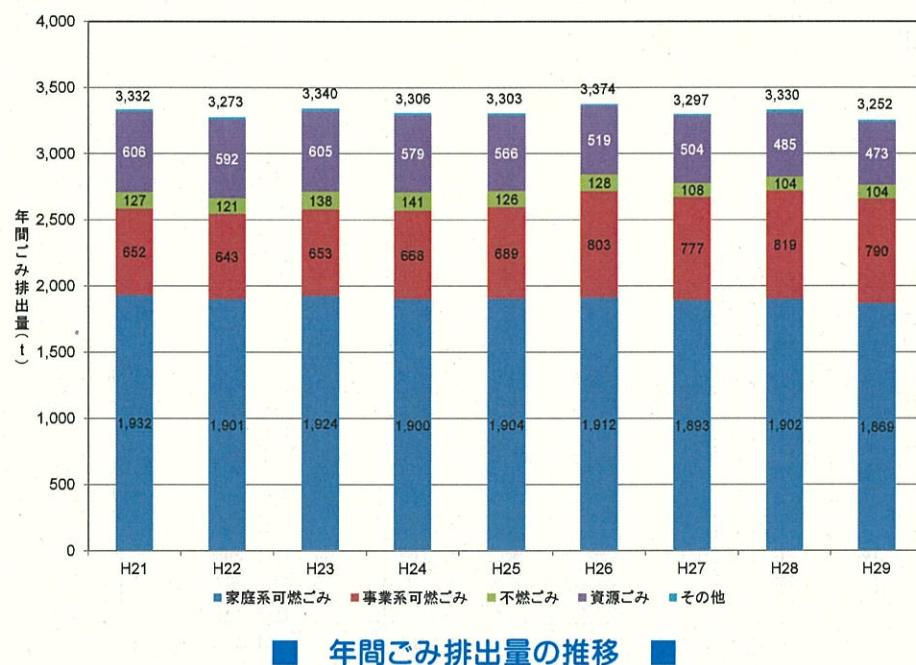
平成29（2017）年度末の生活排水処理率は63.7%となっています。国は、平成37～38（2025～2026）年度の概成（ほぼ全世帯が生活排水処理可能な状態）を目指しており、中井町でも今後10年程度での生活排水処理率の向上が望まれます。

河川水質の項でも触れたように、環境意識調査では、中井町の環境を良くしていく上で重視すべき事項の上位に「下水道の整備」があり、下水道整備に対する注目度が高いことが伺えます。



## (9)ごみ処理状況

年間ごみ排出量の合計値は、平成21（2009）年度以降、3,300t前後の値で推移しており、大きな変化は見られません。ただしその内訳を見ると、事業系可燃ごみが650t程度であったものが、平成26（2014）年度以降は800t程度に増加しています。その一方で、資源ごみや家庭系可燃ごみがわずかながら減少しています。



平成21(2009)年度を100とした場合の変化率を見ると、事業系ごみ(年間可燃ごみ量)は、平成26年度以降20%ほど増加しており、家庭系ごみ(ここでは、年間ごみ排出量から事業系可燃ごみ、不法投棄、環境美化ごみを除く)を1人1日あたりに換算した値はわずかながら減少しています。リサイクル率は、平成21(2009)年度当時は18%ほどだったものが、15%を下回るほどに小さくなっています。

事業系可燃ごみの増加は、老人ホーム等の施設が増加していることから、これらが影響していると予想されますが、環境意識調査でも優先度の高い取り組みとして「ごみの減量やリサイクルの取り組み」が上がっていますので、今後は事業系ごみの減量化、及びリサイクル率の向上に向けた取り組みを行っていくことが必要です。

## 環境に関する豆知識②(食品ロス)

日本国内の1年間の食品由来の廃棄物量は、食料消費全体の3割にあたる約2,800万トンに達します。このうち、売れ残りや消費・賞味期限を超えた食品、食べ残しなど、本来食べられたはずの、いわゆる「食品ロス」は約646万トン(平成27(2015)年度推計値)とされています。これは、飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食料援助量(平成26年で年間約320万トン)を大きく上回る量です。

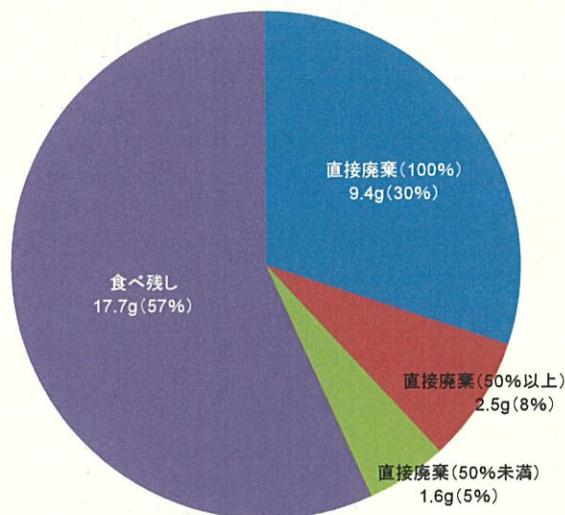
またこの量を日本人1人あたりに換算すると、「お茶碗約1杯分(約136g)の食べ物」が毎日捨てられている計算になります。

国は家庭から排出される食品ロスの量を、平成42(2030)年度までに平成12(2000)年度比で半減させることを「循環型社会形成推進基本計画」に盛り込み、様々な取り組みを進めています。

平成30(2018)年11月に行われた調査によると、中井町で家庭から排出される食品ロスの量は1人1日あたり31gと推計されました。

全国平均の1/4程度と量は少ないものの、このうち9.4gは手付かずの状態で廃棄されており、削減に向け、家庭でも様々な取り組みを進めていくことが必要と言えます。

注) 直接廃棄(100%) …… 買ったまま、全量が手付かずで廃棄されたもの。  
 直接廃棄(50%以上) …… 買ったうちの半分くらいまでしか使われず、廃棄されたもの。  
 直接廃棄(50%未満) …… 買ったうちの半分以上は使われ、廃棄されたもの。



■ 食品ロス調査結果(1人1日あたり) ■

## 2. 中井町の抱える環境課題

国や県の考え方や、住民意識調査の結果を踏まえ、環境特性と取り組み方を、次のように区分することとしました。

第  
1  
章

第  
2  
章

第  
3  
章

第  
4  
章

第  
5  
章

第  
6  
章

資  
料  
編

### 【環境特性】

- ①地球温暖化対策の推進
- ②循環型社会の実現
- ③自然環境の保全
- ④生活環境の保全

### 【取り組み方】

- ⑤環境教育・学習の推進

これらの区分に従い、中井町の環境の現状について整理するとともに、抱える課題や今後の方向性について、次のとおり整理します。

### ■ 環境の現状と課題・今後の方向性等 ■

環境特性・取り組み方	現状と課題	今後の方向性等
地球温暖化対策の推進	○地球温暖化対策への取り組みの優先度が最も高い	◎中井町地球温暖化対策実行計画の着実な推進
循環型社会の実現	●ごみの減量化が進んでいない ○ごみの減量やリサイクルの取り組みの優先度が比較的高い	◎町民・事業者へ、ごみ減量及び分別の啓発
自然環境の保全	○森林や里山の保護・保全に対する意識が高い ●耕作放棄地が増加している ●河川水質は大きく改善している ○川や水路の保全への取り組みの優先度が高く、河川等の水質の維持や汚染防止に関する住民の関心が高い ●生態系調査により神奈川県RD登録種が113種確認できた	◎森林・里山の保護・保全対策の推進 ◎荒廃農地対策の推進 ◎生態系調査の定期的実施
生活環境の保全	●公害苦情件数が非常に少なくなっている ●生活排水処理率は63.7%となっている ○下水道整備に対する住民意識が高い	◎下水道整備及び浄化槽の普及による生活排水処理率の向上 ◎工場排水調査の継続等による良好な河川水質の維持
環境学習・教育の推進	○町からの環境に関する情報提供に対しての満足度が低い	◎住民に伝わる広報手段の検討

凡例) ● : 統計データからわかる現状、○ : 住民意識調査の結果、◎ : 今後の方向性